

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記 I					
英 訳	Book Keeping I					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 簿記は、現金の収入・支出や商品の仕入・販売など、さまざまな企業活動を正しく記録・計算・整理し、その結果を報告するための技術です。企業の経営内容は全て簿記会計で表現でき、簿記の知識や技術を用いずに企業活動を営むことは不可能です。本講義では、複式簿記の基礎である商業簿記の基本原則を中心に記録するためのルールの説明と基本的な仕訳を理解します。						
【授業の目的】 簿記の基本原則(簿記の意味・目的・種類)の理解						
【到達目標】 日商簿記3級合格レベルの理解を目指す						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の章を必ず読んでおくこと、不明な言葉はチェックしておくこと						
【授業計画】 第 1回 講義概要、簿記の目的と種類 (簿記の意義、簿記の目的) 第 2回 仕訳の基本 第 3回 商品売買 I 分記法 三分法 第 4回 商品売買 II 仕入諸掛 売上諸掛 第 5回 現金 第 6回 当座預金、当座借越 第 7回 小口現金 手形 理解確認テスト 第 8回 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金 第 9回 有価証券、その他の債権債務 第10回 消耗品の処理、貸倒れと貸倒引当金 第11回 固定資産と減価償却 第12回 租税公課と資本金 第13回 費用・収益の繰延べと見越し 第14回 仕訳訂正 第15回 まとめ 期末試験						
【教科書】 スッキリわかる日商簿記 3級/商業簿記 (TAC出版) 電卓 (表示桁数は10桁以上) を必ず持参すること。						
【参考書】 随時紹介します						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する						
【メッセージ】 日商簿記検定3級を受験するために、つづけて簿記IIを受講すること。						

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記Ⅱ					
英 訳	Book Keeping II					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】						
簿記は、現金の収入・支出や商品の仕入・販売など、さまざまな企業活動を正しく記録・計算・整理し、その結果を報告するための技術です。企業の経営内容は全て簿記会計で表現でき、簿記の知識や技術を用いずに企業活動を営むことは不可能です。本講義では、簿記Ⅰの学習内容を前提とした上で、諸取引の帳簿への記入と決算について学びます。						
【授業の目的】						
簿記の基本原則(簿記の意味・目的・種類)の理解						
【到達目標】						
日商簿記3級合格レベルの理解を目指す						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の章を必ず読んでおくこと、不明な言葉はチェックしておくこと 						
【授業計画】						
第 1回 前期の振り返り 簿記の基本						
第 2回 仕訳の基本						
第 3回 帳簿への記入 仕訳帳と総勘定元帳						
第 4回 現金出納帳と当座預金出納帳への記入						
第 5回 小口現金出納帳への記入						
第 6回 仕入帳と買掛金元帳への記入						
第 7回 売上帳と売掛金元帳への記入						
第 8回 商品有高帳への記入						
第 9回 受取手形記入帳と支払手形記入帳への記入						
第10回 試算表の作成						
第11回 伝票制度						
第12回 精算表と財務諸表 I						
第13回 精算表と財務諸表 II						
第14回 精算表と財務諸表 III						
第15回 帳簿の締切り						
期末試験						
【教科書】						
スッキリわかる日商簿記 3級/商業簿記 (TAC出版)						
電卓 (表示桁数は10桁以上) を必ず持参すること。						
【参考書】						
随時紹介します						
【成績評価基準】						
期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する						
【メッセージ】						
日商簿記検定3級を受験するために、簿記Ⅰを受講した者に限る。						

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦		
授業科目	会計学				
英 訳	Business Accounting				
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】					
<p>会計とは、経済主体（主に企業）の経済活動を会計帳簿に記録し、株主や債権者等の利害関係者に対してその経済主体の財政状態や経営成績を、財務諸表を通じて報告することをいいます。授業では、財務会計の基礎的概念と技法の理解を通じて、企業経営の意思決定に役立つ会計の本質を学びます。</p>					
【授業の目的】					
<p>近年、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を理解できる能力（会計リテラシー）の重要性が高まっています。財務諸表という情報を理解し、その構造などの知識習得や分析を通して、企業の財政状態や経営成績を読み取る能力の開発を目指します。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表について学習し、企業会計のしくみを理解する。 					
【準備学習(予習・復習)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の章を必ず読んでおくこと、不明な言葉はチェックしておくこと 					
【授業計画】					
<p>第 1回 オリエンテーション 会計学とは何か 第 2回 財務諸表とは何か？ 第 3回 貸借対照表のしくみ 第 4回 資産とは 第 5回 負債とは、純資産とは 第 6回 損益計算書のしくみ 第 7回 損益計算書のルール 第 8回 損益計算書 売上総利益 営業利益 第 9回 損益計算書 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益 第10回 キャッシュフロー計算書のしくみ 第11回 キャッシュフロー計算書の読み方 第12回 財務諸表分析 分析の基本体系 第13回 財務諸表分析 基本分析 成長性分析 第14回 財務諸表分析 安全性 収益性の分析 第15回 まとめ 期末試験</p>					
【教科書】					
「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級」第3版 中央経済社					
【参考書】					
随時紹介します。					
【成績評価基準】					
期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する					
【メッセージ】					
会計学の学習を通じて、経営の仕組みと利益について学びましょう。					

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記会計論					
英 訳	Financial Accounting					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 「簿記」とは、「会社の取引を、一定のルールに基づいて帳簿に記録するための手続」のことです。これに対し、「会計」とは、企業活動（お金やモノの出入り）を記録することです。つまり、簿記の手続で記帳し、その結果を外部に報告する行為が会計であると理解できます。授業では、損益計算書、貸借対照表の基本財務諸表の相互関係について、その仕組みと理論について学習します						
【授業の目的】 簿記と財務諸表の仕組みの理解						
【到達目標】 ・簿記と財務諸表の関係について学習し、企業会計のしくみを理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の章を必ず読んでおくこと、不明な言葉はチェックしておくこと						
【授業計画】 第 1回 講義の進め方 第 2回 簿記会計の知識はビジネスでどのように役立つか？ 第 3回 簿記の流れ I 第 4回 簿記の流れ II 第 5回 会社が行う実際の取引 第 6回 決算整理 第 7回 財務諸表の仕組み 損益計算書 第 8回 財務諸表の仕組み 貸借対照表 第 9回 財務諸表の仕組み キャッシュフロー計算書 第10回 会計原則 第11回 財務分析の基礎 I 第12回 財務分析の基礎 II 第13回 管理会計の基礎 固定費と変動費 第14回 管理会計の基礎 損益分岐点 (BEP) 第15回 まとめ 期末試験						
【教科書】 キッチンとわかる！簿記から始める会計入門 滝沢みなみ TAC 出版						
【参考書】 随時紹介します。						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する						
【メッセージ】 聞きなれない専門用語が並んでいますが、実際の企業の事例を使いながら分かりやすく学べます。簿記論と合わせて受講してください。						

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	井上 照章		
授業科目	マーケティング論A				
英 訳	Marketing Strategy A				
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 巨額の予算を投入して売れない商品、一方思いがけない商品がヒットする。何故？ 企業が市場で成功するためのマーケティングの基礎を学ぶ。					
【授業の目的】 市場のメカニズムを習得すること。					
【到達目標】 企業が市場で成功していくための切り口とその対応策を理解する。					
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。					
【授業計画】 第 1回 : マーケティングとは? 誕生と変遷 第 2回 : 基本的なマーケティング概念 第 3回 : マッカーシーの4 P政策 第 4回 : SWOT分析 第 5回 : 戦略ドメイン 第 6回 : 戦略的マーケティング策定フロー 第 7回 : マーケティング戦略の策定フロー 第 8回 : 戦略的マーケティングの領域 第 9回 : 競争地位戦略 第10回 : ソーシャルマーケティング 第11回 : 環境対応としての戦略的マーケティング 第12回 : リーダー企業の定石戦略 第13回 : 市場細分化の必要性和方法 第14回 : 消費者行動分析 第15回 : まとめ 期末試験					
【教科書】 なし					
【参考書】 なし					
【成績評価基準】 期末試験 (70%)、平常点 (30%) で評価する。					
【メッセージ】 日々報道される商品市場動向に注目し、「何が、どうして？」の興味をもつことが大切です。					

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	井上 照章		
授業科目	マーケティング論B				
英 訳	Marketing Strategy B				
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 市場で成功するためのマーケティング・ミックス 4 P (Product:製品, Price:価格, Place : チャネル, Promotion:販促) につき学びます					
【授業の目的】 市場で浮沈を決めるのは何か? 具体例を検証しながらその背景と対応策を理解する。					
【到達目標】 上述切り口から成功のためのアプローチ手法を習得すること。					
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。					
【授業計画】 第 1 回 : 製品の定義、商品の分類 第 2 回 : 製品ライフサイクル 第 3 回 : 新製品開発プロセス 第 4 回 : 計画的陳腐化政策 第 5 回 : ブランド基本戦略 第 6 回 : ナショナル・ブランド (NB) とプライベート・ブランド (PB) 第 7 回 : 価格設定の基本方針 第 8 回 : 新製品の価格設定 第 9 回 : 製品ミックスを考慮した価格設定 第 10 回 : 割引による価格対応 第 11 回 : 心理面を考慮した価格戦略 第 12 回 : プル戦略とプッシュ戦略 第 13 回 : チャネル戦略 第 14 回 : 広告 第 15 回 : まとめ 期末試験					
【教科書】 なし					
【参考書】 なし					
【成績評価基準】 期末試験 (70%)、平常点 (30%) で評価する。					
【メッセージ】 日々報道される商品市場動向に注目し、「何が、どうして?」の興味をもつことが大切です。					

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	大塚 厚二			
授業科目	情報ビジネス概論					
英 訳	Introduction to Information Business					
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 インターネットサービスの例について教科書をもとに教える。無料を原則とするインターネットで、どのように金を儲けているかを事例で教える。楽天などを例に、ネットビジネスを立案させる。						
【授業の目的】 インターネットに展開された経営と技術の全体像を理解するための授業を講義形式で行う。目標は、ネットでの販売・サービスを中心に、リアル(実際の店舗や流通網など)とネットとの組み合わせによる販売・サービスなどを含むビジネスについて事例研究を通じて理解してもらい、将来の進路での参考にしてもらうことである。						
【到達目標】 インターネットサービスを提供する側の視点を獲得することが目標となる。利用する側から見えても、提供する側はいろいろな工夫をして努力している。その工夫や努力が見えるようになると、社会で活躍できるようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 事例を示すので、成功した理由について、失敗した理由について、自分で考えて欲しい。授業での説明を聞いて、自分の考えを深めてほしい。						
【授業計画】 第 1 回 オリエンテーションと導入 第 2 回 インターネットの進展 第 3 回 情報ビジネスの現状 第 4 回 BtoC ビジネス 第 5 回 ポータルサイト・ネットショップ 第 6 回 インターネットモール・ネットオークション 第 7 回 ブログ・SNS・コミュニティ機能 第 8 回 経営理論から見た BtoC 第 9 回 経営手法 第10回 BtoC ビジネスの事例 第11回 e マーケティングと購買行動のモデル 第12回 SEM/検索連動型広告/コンテンツ連動型広告 第13回 Web2.0 によるイノベーション 第14回 ビジネスモデルを作る 第15回 まとめ 期末試験						
【教科書】 eビジネスの教科書 (著者名：幡鎌博、出版社名：創成社)						
【参考書】 教科書に在る事例のリンクは授業支援サイトに載せる。						
【成績評価基準】 2回のレポート(40%)、期末試験(60%)						
【メッセージ】 お金の儲けるだけの企業は、潰れる。他方、お金を儲けない集団もすぐに潰れる。実際のビジネスはこの中間で動いているので、社会人として成長するために中間が見えるようにしたい。 教員の免許状取得のための選択科目 (高等学校 情報/情報社会及び情報倫理)						

区 分	専門科目群 - 情報ビジネス科目	担当教員	井上 照章			
授業科目	国際ビジネス文化論					
英 訳	International Business Culture					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 教員の海外営業体験、海外駐在（アメリカ、インドネシア）及び外資系（アメリカ、ドイツ）勤務をベースに国際ビジネスの実態を解説していく。						
【授業の目的】 国際社会のなかで日本人の働き方を学ぶこと。						
【到達目標】 国際化は避けて通れない。こうした状況下 国際ビジネスを成功させるためのキーポイントを理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1 回 : 概観 世界貿易 第 2 回 : 3つのキーポイント～海外ビジネス成功のために～ 第 3 回 : アメリカのビジネス文化 第 4 回 : インドネシアのビジネス文化 第 5 回 : ドイツのビジネス文化 第 6 回 : 貿易収支と経済収支 第 7 回 : 円安と円高 第 8 回 : 貿易に関する国内法規 第 9 回 : 輸出貿易管理 第10回 : 輸入貿易管理 第11回 : 貿易形態～直接貿易から逆輸入まで～ 第12回 : 貿易と環境 第13回 : TPPとは？ 第14回 : 経済連携の枠組み～アジア太平洋～ 第15回 : まとめ 期末試験						
【教科書】 なし						
【参考書】 なし						
【成績評価基準】 期末試験（70%）、平常点（30%）で評価する。						
【メッセージ】 日々報道される海外とのビジネス情報に興味をもつことが大切です。						